

上関町の小中一貫教育で一貫して取り組む内容とは

令和3年5月28日
上関町教育委員会

1 教育理念・学校教育目標・めざす児童生徒像に向けて一貫して取り組む ～どのような人間を育てたいのか、どのような力を付けたいのか～

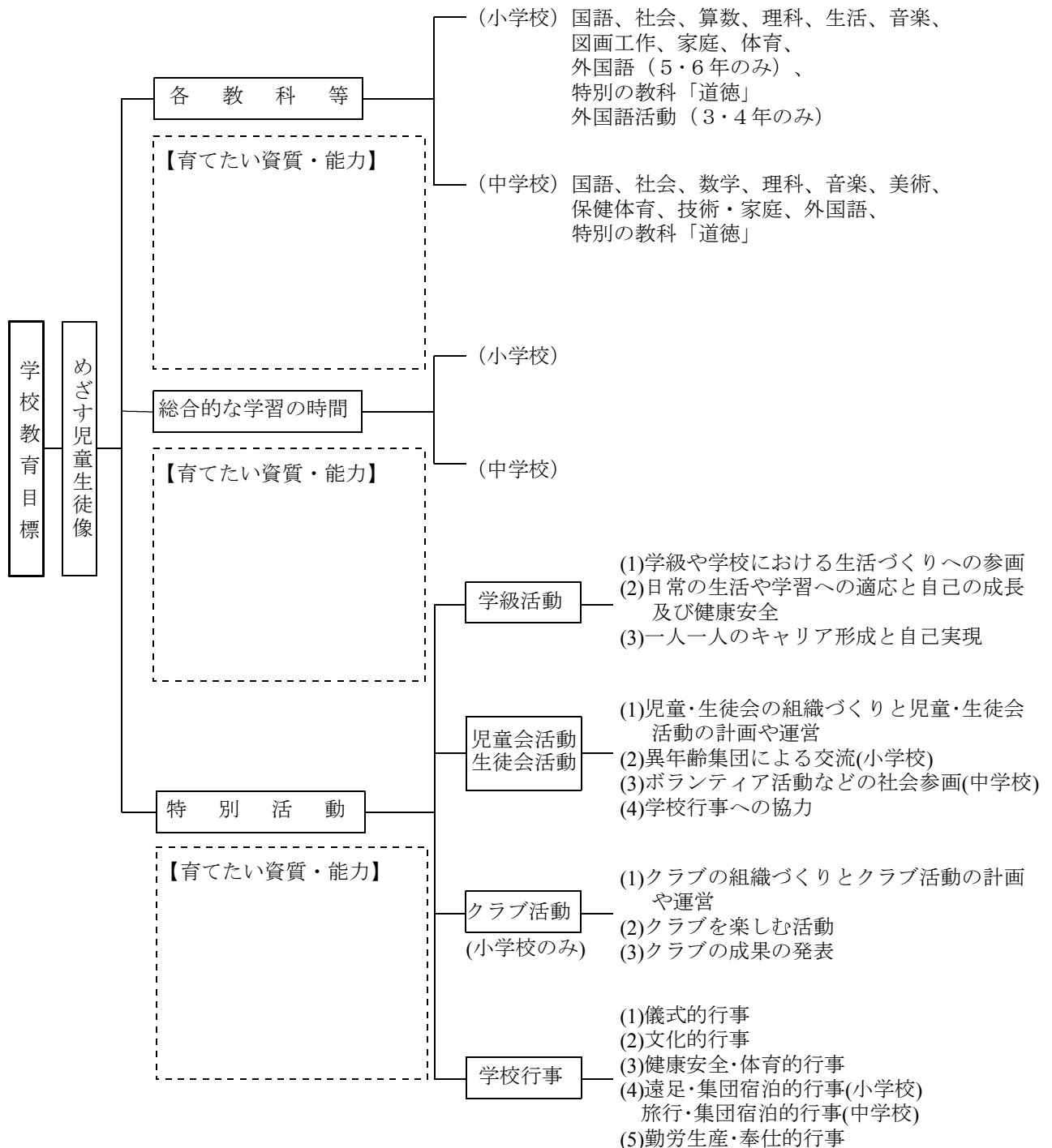
※町の教育理念

「郷土愛と生きる力を育む小中一貫教育の推進」

※町として育成したい児童生徒像

「夢や志をもち、他者とかわり、よさや可能性を伸ばしながら自らを高めていこうとする子」

2 カリキュラム全体で資質・能力を一貫して育てる



3 小中一貫教育推進の基盤を一貫する

(1) 児童生徒理解

教育は一人ひとり、具体的な名前を持った「この子」のよりよい成長のために行われるものである。子どもをとらえることは、「この子」の現在の姿を知るだけでなく、「この子」のよさや可能性を伸ばす上でも大切なことである。子どもは、教える対象というよりも、多くのものを教えてくれる学ぶ対象である。

子どもが心を開くのは、自分を一人の人間として認め、信じ、励まし、新しい可能性を切り拓いていくことを援助してくれる人に対してである。

子どもをとらえる場合、言動の背後にある個性的な思考をとらえ検討しなければ、子どもの考えや生き方を変え、発展させる人間教育を実現することはできない。

(2) キャリア教育

我が国の子どもたちは、他国に比べて、将来就きたい職業や自分の将来のために学習を行うという意識が低いということが指摘されている。働き方について考え、選択、決定することなく、進路意識や目的意識が希薄なまま、とりあえず進学する者が多いと思われる。社会全体に「将来のための教育、学習」という意識が低いということが言えるであろう。

教育というものは、よりよい人生やよりよい社会を建設していくための営為である。一人ひとりが自分のよさや可能性を伸ばして自己実現を図れるように、またよりよい社会を創り上げていけるように支援していくことが大切である。そのためには、学ぶことと自分の人生や社会とのつながりを実感しながら自らの能力を高め、学習したことを活用して、生活や社会の中で出会う課題の解決に主体的に生かしていける力を育てていくことが重要である。

(3) 地域に即した学習の推進

現代社会では、人が育つ土台である家庭や地域社会の協働的な関係性や文化が失われていく傾向にある。家庭、地域社会、学校がそれぞれ本来の教育機能を発揮し、バランスのとれた教育を推進していくことが重要である。

学校においては、「社会に開かれた教育課程」という理念のもと、家庭や地域の人々とともに子どもを育てていくという構えをもつことが大切である。本町は、自然、歴史、行事、伝統、文化等、またそこに暮らす人々といった資源に恵まれている。そういった素材を活用し、直接体験を基盤にした学習を推進することによって、具体的に考えることができる。

コミュニティ・スクール（学校運営協議会）の仕組み等を活用して、地域と協働したカリキュラム・マネジメントを行っていくことが重要である。

4 教育目標やめざす児童生徒像を踏まえ資質・能力を育成していくことを一貫する

		資質・能力を育成していくための視点・観点	育成していく資質・能力
教科等の枠づけの中での学習 学習の内容自体を 学習者たちが決定する学習	教科等の学習	①学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「 主体的な学び 」 ②子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「 対話的な学び 」 ③各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「 深い学び 」	問題を発見する力 問いを持つ力 主体的に学ぶ力 自分の考えを表現する力 他者の考えを理解する力 対話や議論をする力 コミュニケーション力等
	総合的学習	探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目指す	問題を発見する力 自分の考えを表現する力 他者の考えを理解する力 対話や議論をする力 個性や能力等
	特別活動	集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して資質・能力を育成することを目指す （学級活動、児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事）	問題を発見する力 自分の考えを表現する力 他者の考えを理解する力 対話や議論をする力 個性や能力 リーダーシップ [°] ・フォロアーシップ [°] 等

5 学校や地域の実態を生かした「カリキュラム・マネジメント」を一貫して推進する

- ・教育目標やめざす児童生徒像にせまっていくための計画としてのカリキュラムを
- ・「カリキュラム・マネジメント」は全員で行うもの
- ・各教科等、総合的な学習の時間、特別活動横断型の「つながる学び」へ
- ・学校や地域の実態を生かした特色あるカリキュラムを生み出すことが重要である
- ・「子どもの思いや願い」と「教師の思いや願い」をアレンジする
- ・カリキュラムは編成、修正され、進化するものである

6 「主体的・対話的で深い学び」（「アクティブ・ラーニング」の視点で）を一貫して推進する

- ・「自立した人間として、多様な他者と協働しながら、創造的に生きていくために必要な資質・能力」を育てていくために
- ・教師による一方的な講義式授業からの脱却
- ・児童生徒一人ひとりが主体的に取り組めるような学習へ
- ・正答主義の学習観から共同探究の学習観へ
- ・子どもたちが考えたいくなる状況や取り組んでみようと思える課題を設定することが最も重要

7 「真に子どもたちの成長につながる評価」を一貫して推進する

- ・評価というものが指導要録や通知票作成、証明のための作業に矮小化されがちである
- ・評価の「対外証明機能」、「判定機能」を縮小し、「本来の教育的な評価」へ
- ・評価の目的は、子どもたちの成長を支援していくことである
- ・子ども理解を基盤として、一人ひとりの言動や取組を価値付け、支援していく
- ・教師は、教育の営みを振り返り、それを次の実践に生かしていく

8 自己実現を支援していくための生徒指導を一貫して推進する

- ・「生徒指導は子どもたちの問題行動を改善していくこと」といったイメージをもちがちであるが
- ・生徒指導とは、一人ひとりの児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動を高めるためことをめざして行われる教育活動である
- ・生徒指導は、すべての児童生徒のそれぞれの人格のよりよい発達をめざすものである
- ・生徒指導は、児童生徒自らが現在及び将来における自己実現を図っていくための自己指導力の育成をめざすものである
- ・したがって、生徒指導を進めていく上で、その基盤となるのは、児童生徒一人ひとりについての児童生徒理解の深化を図ることである

9 小中一貫教育を推進していく上での柱を

- ・教職員、保護者、地域住民にとって共通の土俵があるとよい
- ・9年を見通した教育活動を推進していく上で中心的な柱となる教科や領域を設けるとよい

※ 学習指導要領（平成29年度告示）前文より

これからの学校には、（中略）一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。このために必要な在り方を具体化するのが、各学校において教育の内容等を組織的かつ計画的に組み立てた教育課程である。

教育課程を通して、これからの時代に求められる教育を実現していくためには、よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を学校と社会が共有し、それぞれの学校において、必要な学習内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを教育課程において明確にしながら、社会との連携及び協働によりその実現を図っていくという、社会に開かれた教育課程の実現が重要となる。